

講演の感想:参考になった点について(研修事後アンケートより)

介護福祉の歴史

<p>介護の誕生から今日に至るまでの歴史をについて深く知ることができた。また、井上先生が実感された介護に対するイメージや価値観などが介護をする人たちにとってどんな影響を及ぼすか考える良い経験を教えてくださって本当にありがとうございました。</p>
<p>介護福祉の歴史を今だからこそきちんと整理し、学んでおくことが必要だと思います。</p>
<p>資格の誕生にまつわるお話を生で来てたことと、今後の介護福祉士教育について考えさせられた創設の経緯やそれに携わった人の思いが聴けてとてもよかったですと思います。</p>
<p>介護福祉士の国家資格に向けての動きと先生方の熱意を改めて実感いたしました。</p>
<p>ヘルパー創生期を経験された生の声をお聞きでき、改めて介護のあゆみを理解することができたことが大いに参考になりました。</p>
<p>介護福祉士資格が介護現場の切実な思いを経て成立したことの意義、それをこれからの世代がさらにバージョンアップさせながら受け継いで行かなければいけないのではないかという使命感を得ました。</p>
<p>介護の歴史がとても身近に感じられた。現に経験者の言葉の重みを感じます。私も介護保険前からのヘルパーで、介護保険制度の初めからのケアマネをしております。若い人に介護の意義が伝えられないのは、先生の言われた、今の制度がお金で刻まれているせいだと感じました。参考にならないところはありません。</p>

介護福祉の社会的評価

<p>日本においては介護は社会的価値が低い、どのようにして高めていくか。いかなくってはならないと強く感じた。</p>
<p>介護の社会的評価の低さ。 本当に社会から隠してしまう傾向は、いまだ、払拭されていない傾向です。これをどのようにしていかないといけないのか、再度、考える機会を頂きました</p>
<p>歴史的経緯 介護の社会的価値を高める必要性など とても勇気をもらえるお話でした</p>
<p>このたびは研修会を開催してくださり、また、介護福祉養成について考える機会をくださりありがとうございました。 介護を業とする者の評価の低さは今も変わらない、その国の文化、高齢思想。との井上先生のご発言には正直ショックを受けました。少しは向上してきた、と思っていましたが振り返ってみると、とりわけホームヘルパー、訪問介護の待遇の悪さが露呈しており、希望のない職種になってしまっていることを再認識しました。大学と他養成と区別化して養成しなければならないという言葉も響いております。 本学はダブルライセンスを目指しますので4年間で決められた科目を履修するのがやっとです。幅のある、高さのある介護福祉士を養成するためには何か必要か、まずは自分なりに考えてみたいと思いました。</p>
<p>介護福祉の世界を牽引されて来られた井上先生からのご講演を拝聴出来ましたことを、大変光栄に思っ</p>

ております。まず冒頭で、歴史が変わりゆく中で介護の社会的評価の低さが依然として変わっていないとの指摘にドキッとしたと同時に、社会的評価を上げていくために自身に何が出来るのかを考えながら拝聴させて頂きました。私が進路を考える際にはすでに介護福祉士は誕生しており、介護福祉士となり現場での実践や介護教育の道を歩ませていただいておりますが、介護福祉士が国家資格として誕生する背景には井上先生をはじめ様々な先輩方のご尽力があったことを実感し、今介護福祉士として介護を学生に教えることが出来ている幸せを再認識させて頂きました。また、学生や後輩達に介護の仕事のおもしろさや魅力、醍醐味を伝えていくことや、介護福祉士として人としての感性を育てていけるように教育すること、介護の歴史を伝えることで介護福祉士としての誇りを感じられるようにすることなど、井上先生のご講演から自身の今後の課題も見えてきましたので、ぜひ次の授業から一つずつでも積み上げていけるように日々努力と研鑽を重ねていきたいと感じました。貴重な機会を頂きましたこと、感謝申し上げます。

資格の存在意義

介護福祉士という資格の存在意義など、あまり考えたことはなかったが、深く考えさせられた私の知らなかった歴史を知ることができ、改めて考えさせられましたし、資格の価値を再認識しました。介護福祉士が創設された歴史的背景について、現在改めて先行研究などを読んでいたところだったため、本日の話は腑に落ち、改めて介護福祉士の社会的評価を確立するために何が必要かを模索するきっかけとなりました。

介護に対する概念

介護に対する概念がしっかり語られている。

介護観（感性、人権）を育成することの大切さ、生命の活性化を図るのが介護支援の目的であること等、介護専門職としての視点を再認識でき、今後に活かせるお話だった。

ホームヘルパーとして、その時代の利用者へのまなざしは現在に通じると思いました。現場での実践を忘れず、教育として専門職として知識、技術を積み重ねて、現場での経験からさらに知識、技術を学んでいくことで、価値につながるように教えていけるようになりたいと思いました。

先生が実践しながら作り上げて来られたヘルパーの仕事とその仕事への思いの中に介護の仕事の醍醐味を感じる事が出来ました。

井上先生がご経験されたことを、先生のお言葉でお聞きすることができたことに大変価値深い体験となりました。ありがとうございました。

現在は高校教員として、高校生に福祉を教えています。現場を離れ何年か経ってしまっていることや、学ぶ場に行くことが少ないこともあり、自分自身が介護に対して考える機会が減ってきていると改めて感じました。自らも教員として、学び続けていきたいと思っております。

<p>久しぶりに井上先生のご講演を聞かせていただきありがとうございました。かわらない張りのあるお声、お話の歯切れ良さなど懐かしく思い起こしました。先生がおっしゃっていました「その人のことを大事にする」という言葉の重みを再確認することができました。また社会に働きかけ続けることの重要性を再認識いたしました。</p>
<p>感性を磨いていくことの大切さが分かりました。</p>
<p>これまでの経過について知ろうとする、知りたいという学生は少ない状況がある。この状況を踏まえた上で、専門職としての誇りを持ち続けるために伝える事の大切さを肝に銘じ取り組んでいきたい。「介護福祉士が担うべきもの」を教授するにあたり、生活の中に当たり前の事として存在する家事のとらえ方や意味の理解から生活支援について改めて考えるきっかけになりました。</p>
<p>これまで、どのようにヘルパーや介護福祉士の資格が作られてきたのかを伺って、資格にプライドを持ってました。また、生活を支援することの価値や人権教育など、これから自分がしていくべきことなどについても整理ができました。</p>
<p>利用者の満足こそが介護サービスの最大の目的になると考えていました。生活の基盤を支えることの重要性と、それを対外的に発信していくことの重要性を改めて理解できたかと思います。</p>
<p>介護福祉士の成り立ち、ホームヘルパーの歴史など理解をしているつもりでしたが、全く薄っぺらいものであったと実感しました。それらの流れの中で介護の醍醐味を理解し学生に伝えていく意味、介護教育の中で人権や介護観の育成がもたらす価値の再認識をしました。</p>
<p>看護から介護教育に転身して16年になります。井上先生と年齢が近いせいか、経験したこと、時代の風潮など思い出しながらお話を伺いました。学生の感性や意識づけは、文字や言葉では困難だと思い、体験授業を取り入れる工夫もしました。18歳頃の学生は自分で感じ・考える力を持っていることも学び、楽しい時間でした。</p>
<p>私は「介護の基本」を担当しています。現在の教科書は簡潔に書かれているため学生に伝える際に薄い内容になりがちでした。しかし、今回の「Ⅰ．介護とともに歩んだ半世紀」では介護の良さを、「Ⅱ．ホームヘルプサービスの歴史」と「Ⅲ．特記すべき節目と裏話」では介護福祉士のプロとしての位置づけを、根拠をもとに伝えることができると思いました。</p>

研究についての取り組み

<p>全国180万人の介護福祉士のほとんどが、教育らしい教育を事前に受けずに介護福祉士になっている。人が生きていくことを支える専門職でありながら、通り一遍の介護技術さえも身につけることなく国家資格を手にし、職業倫理や福祉について学ぶ機会もなく仕事に就き、事後教育は個人の意思に任せられているこの30年間。社会に認められる専門職であるわけもないと考える。でも、ここから、もう一度。稚拙であっても実践研究を（まずは質より量も大事）積み重ねること。社会的認知や処遇待遇が低くても、私たち自身が力をつけ、人々のささやかでも幸せのある生活を支え続けていくこと。何かを獲得するためには、信念を曲げることなく、あきらめることなく、腐ることなく、忍耐強く、繰り返し繰り返し訴え続けること。未来につないでいきたいと思う。</p>

介護支援の価値観について研究を深めなければならないと感じました。

四年制大学における介護福祉養成

短期大学と大学の違い、有資格（介護福祉士）と無資格との違い、家事支援について自分のためにすることと人のためにすることの違い、などが非常に印象に残りました。

介護福祉・ホームヘルパーのあゆみについて、井上先生の経験も交えながらお話いただいたことで、画面越しであっても井上先生の熱が伝わってくるような時間でした。私自身、四年制の大学を卒業したので、その使命・意義とは何かを見つめ直すきっかけとなりました。

参考になった分として、老いを社会のどこに位置付けるかによってその国がわかるということ、4年制大学でのリベラルアーツの重要性、感性の教育。4年制大学では、専門性を深めるというところに意識がいており、リベラルアーツ、一般教養についてはあまり考えたことがありませんでした。

四年制大学としての養成の特性として、リベラルな感性の教育という基本を考える機会となりました。

介護福祉士、介護福祉士養成の歴史を井上先生の語りで伺えることが、まず素晴らしいことです。介護福祉士養成課程を大学に設ける意義として「人と人がかかわる」のだから「リベラルアーツ」を充実させることを試みて欲しい、とエールをいただきました。大切なポイントだと思いましたし、その考えを引き継がせていただきたいとも思いました。

介護福祉士養成大学の多くは、ダブルライセンスを取得するというで介護福祉士を養成しており、社会福祉士を中心とした教育になっているような気がしていました。本日、久しぶりに介護の本質に触れたような気がいたしました。久しぶりに心が震えるお話を伺うことができました。ありがとうございました。

井上先生に聞いたみたいこと

シリーズ化

ぜひ、またお話いただきたいと思います。井上先生を交えて「本日参加された先生方やこれから参加されたい方々の意見を聞く会」の開催について賛成です。

シリーズ化して、井上先生の講話をお聞きしたい

先生が介護福祉教育の中で大切にしてきたもの

その時代、その時代に考えられてきたことをお聞きしたい。

井上先生のお話を聞くことによって介護の魅力は伝わるのですが、それを聞く機会をいかに作っていったらよいか。

生活は「生命の活性化」だというお話をされていましたが、家政の中での生活の捉え方、また先生が考える介護の生活についてお伺いしたいです。

私自身が、社会福祉系の教員のため「家政」について知識をほとんど持っていません。今日の先生のお話の中で、「生活」＝生命を活性化する、と捉えることに、介護と家政、社会福祉、医療の間で何かがつながったような気がいたしました。この辺り（アバウトですみません）のお話をもう少しお聞きし

たいです。

四年制大学の役割

大学では、先生から多くのことを学ばせていただきました。現在、金城時代の別の先生の前、日本うんこ文化学会を立ち上げ、排泄ケアに関する研究を進めています。求職の状況的には、高卒や中卒で資格を持たない方、養成校でも外国人や職業訓練者が殆どを占めています。今後私たち四大卒者がどのような役割を担っていくべきか、もっとお話を聞きたいと思います。

4年制大学の強み、人権・感性を高めていく教育について、もっとお聞きしたいです。

教育に携わる上で、学生が4年間で人間形成の基礎を築くことに繋がるような働き掛けをしていきたいと思いい日々試行錯誤していますが、井上先生は、大学教育の中で、どのような信念をもち、どういった点に重きを置いていらっしゃいましたでしょうか。人権教育、感性教育をするにあたり、実際にどのようにされていらっしゃいましたでしょうか。もしよろしければ具体的な教育内容を1つでもお聞かせいただくと幸いです。本日は井上先生の貴重なお話を聞くことができ感謝しております。ありがとうございました。

人権教育・感性教育

介護の専門職として人権教育をどのようにしていけば良いのかについて具体的に伺いたいです。

感性や教養をつけることへの教育について

その他

生活援助は住民の支え合いで行うと国は方針を出しています。どうすれば政治家や行政・知識人に生活援助の必要性を？分かっていただけるか？日々悪戦苦闘しています。

井上先生、ありがとうございました。介護の専門職の資格が必要であるということを、議員の方に手紙でお伝えをされたそうですが、斎藤十朗先生以外にも手紙を書いたのでしょうか？手紙の中身についても、もう少しお聞きしたいです。よろしく願いいたします。

先生が「こういう物は歩いてこない」とおっしゃっていたことから、今まさに何らかの行動を起こさなければならぬのではないかと感じています。